



## ナイチンゲール生誕200周年に当たって思うこと

日本赤十字看護大学  
名誉教授 川嶋 みどり



日本赤十字看護大学資料室

ナイチンゲール生誕200周年を機に、改めて彼女の偉業を辿ってみると、COVID-19のパンデミックに向き合っている今の私たちとの距離の近さを感じないわけにはいかない。クリミア戦時の献身的な活動は世界の賞賛の的となったが、彼女にとっては、「地獄を見た。決して忘れない」と幾度も書いているように、当時、未知の感染症で多くの兵士たちの死を防ぎ得なかったことへの悔恨ではなかったろうか。戦後、統計学的にその死因の大半が、軍病院の衛生環境と過密の改善により防げたはずであったことを突き止めた。

「看護覚え書」は、その経験知をもとにしたもので、院内感染防止策に関する記述が随所にあるが、全編を貫くのが、「清潔な環境」と「換気」、そして「自然の回復過程」である。三密のもとでの新生活様式が普及しつつあるが、看護の立場からは、感染防止や症状悪化を防ぐ上での自然の回復過程への信頼と、その具体策としての生活習慣の見直しこそ重要であると思う。ともあれ、200年の時を超えて同じ立ち位置で学ぶべきは、リスクを基点にした真理探究への情熱とチャレンジ精神、そして、改革のためには権力を恐れず立ち向かいやり遂げる行動力であると思う。



著者の学生時代

## 新型コロナ禍での取り組み

### — 感染症指定病院として、一期一会の看護を大切に

名古屋第二赤十字病院  
副院長兼看護部長 伊藤 明子



写真提供：名古屋第二赤十字病院

当院のCOVID-19陽性患者の受け入れは、2月中旬ダイヤモンド・プリンセス号への救護班を派遣した数日後からでした。他院に入院中のCOVID-19陽性患者の状態悪化により当院への転院依頼があり、第一種感染指定病床をもつ呼吸器センター棟に受け入れました。それから徐々に患者数は増加し、ICUにも重症患者を受け入れました。

COVID-19陽性患者の病状や回復過程は様々です。無事に退院なさった患者さんからは労いの言葉をいただき、「あなたたちがいなければ助からなかった。ありがとう。」、との言葉で目頭を熱くした職員も多数います。残念ながらお亡くなりになった患者さんには、何とかしてご家族に面会をしてもらいたいと連絡をとりました。しかしご家族も陽性者あるいは濃厚接触者であり、面会に来ることができない、あるいは

様々な配慮から面会を辞退されることもありました。最期に来院されたご家族に看護師たちは、入院中の患者さんとの会話やご家族に対する想いを、伝え忘れないように、場面々を思い起こしながら伝えていきます。看護師の話の聴きながら、「そうだったんですね。それを聞いて安心しました」と、涙ながらに感謝の言葉をいただきました。看護師たちの存在は、感染隔離で離れ離れになった患者さんご家族との精神的な距離を縮めることに繋がっています。「また今度」ではなく、その時、その場でできる最良な看護を提供することに尽力する一期一会の看護。まさにCOVID-19感染禍においても一期一会の看護を実践できているのは、当院の看護部の誇りです。

## 新型コロナ禍での取り組み — 障がい者施設における心のケア

日本赤十字北海道看護大学  
教授 尾山 とし子

オホーツク圏内の知的障害者施設で、11名の新型コロナウイルス感染者が発生した。北見赤十字病院は、4月29日～5月31日まで16班の救護班を派遣し、私は、施設職員の心のケア要員として活動した。

この施設は、50名(平均51歳)に対し40名の職員が24時間体制で勤務。ユニット型構造で全員が個室生活であり、ゾーニングしやすい環境であった。

知的障害者は、環境変化への対応が困難なため、早期介入による陽性者の診療を施設内で実施し、職員には心のケアを含めた安心安全な職場環境のためのスタンダードプリコーション等のPPE指導を活動方針として掲げた。

面談した職員の方々は、大変温かく利用者に寄り添い、新型コロナウイルス感染という未知の世界で、使命感を持ち頑張っている姿が印象的だった。一方で、「世間の目を気にしながらコンビニに行っている」や「新聞配達が来ない」の発言に愕然とした。「これで死んでも構わない」という覚悟は世間に伝わらず、風評被害が独り歩きしていた。

人は、見えない敵に対して不安や恐れを抱き、それらは生き延びようとする本能を刺激する。そして、特定の対象を嫌悪し、差別することで束の間の安心感を得ていく。しかし、どのような状況下にあっても人道の理念を掲げ、行動するのが赤十字である。この理念の意味を再認識した活動であった。



施設職員と意見を出し合いながらの活動

写真提供：北見赤十字病院

## 新型コロナ禍での取り組み — 日本赤十字看護大学における遠隔授業の紹介

日本赤十字看護大学看護学部  
教授 三浦 英恵

新型コロナウイルスの流行に伴い、対面で行っていた授業・演習・実習をどのように行っていけばよいか、多くの大学が頭を悩ませたことと思います。日本赤十字看護大学では2020年4月よりWEBでの学習管理システム(Learning Management System:LMS)の導入をもともと予定していたことが幸いとなりました。3月に授業プロジェクトチームが立ち上がり、4月にLMSを活用したWEB授業の作り方・進め方のFD・SD研修を行いました。5月から遠隔授業が本格的に開始されましたが、教員も学生も慣れるまでは、様々な苦労や失敗もありました。しかし、今ではWEBでの授業や会議も普通の日常になっていることは、本当に不思議です。

特に前期においては、授業だけではなく実習もオンラインで計画しなければならなくなったことは、大きなチャレンジでした。本来の実習目的・目標を変更することなく、LMSやWEB会議システム(Teams・Zoom)を活用しながら、オンライン実習と学内実習(演習)を組み合わせ、より効果的な学びができるように検討を重ねました。成人看護学での実習では、化学療法を受ける患者と周手術期患者の事例を作成し、患者の情報や検査結果、看護記録などは、臨地で実習する場合と同様に、カルテが日々更新されるように工夫しました。また、患者の様子やケア場面のVTRを作成し、学生がLMS上で視聴できるようにすることで、患者理解や臨場感を高めることにつながったと感じています。学内実習(演習)は、少人数で空間を広く確保し、感染対策を十分に行った上で、学生が立案した看護援助計画に基づいたケアを実施できるようにしました。臨地の実習指導者の方にWEBを通じてカンファレンスに参加していただき、ご助言を頂くことで、学生は臨床とのつながりを感じながら実習を行うことができました。

## 令和2年7月豪雨への支援と課題

災害看護活動委員会  
亀井 縁

7月3日から8日にかけて西日本や東日本で大雨となり、特に九州では4日から7日は記録的な大雨が襲いました(気象庁,2020)。この大雨により、球磨川や筑後川といった大河川での氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水等により、人的被害や物的被害が多く発生し、熊本県では死者67名、住家の全壊、半壊は4300棟に及びました(消防庁,9月3日現在)。日赤救護班は人吉市を中心に7月4日から活動を開始し8月3日までに34班、日赤災害医療コーディネイトチームは7月7日から8月1日までに人吉医療調整本部、熊本県庁などに30班が派遣されました。この他にも日本DMATや支部災害対策本部支援要員の派遣、救援物資の配布など多くの赤十字ボランティアの皆様が活動を行いました。

今回の豪雨災害は新型コロナウイルス感染が拡大する最中の発生となり、避難所での感染症対策を徹底することが必要で、外部支援者の活動方法や被災者の避難行動に影響をもたらした可能性も考えられます。また、災害ボランティアは県内や市内在住者に限定するなど、支援の人手不足も生じることになりました。コロナ禍における災害支援のあり方の検討が求められます。

写真出典：日本赤十字社 令和2年7月豪雨にかかる日本赤十字社の対応等について  
[http://www.jrc.or.jp/domestic\\_rescue/202007sokuho.html](http://www.jrc.or.jp/domestic_rescue/202007sokuho.html)



人吉市内の避難所にて生活環境に関する聞き取りを行う福岡県支部救護班



避難所で巡回診療を行う日本赤十字救護班

## 第21回 日本赤十字看護学会学術集会を終えて

第21回 日本赤十字看護学会学術集会  
会長 安藤 広子

本学術集会は『不確かな時の“生きる”を支える看護』をテーマに、7月4日・5日に日本赤十字秋田看護大学にて開催の予定で、皆様にご依頼・準備をお願いしてきました。しかし、COVID-19感染拡大の収束の見通しが立たない状況となり、5月10日の理事会で【誌上・一部Web開催】に決定となりました。企画委員会では、Web配信の内容決定とその時間の再検討を行いました。そして、開催期間を7月4日～10日の1週間と設定しました。Web開催期間には大きなトラブルもなく終わることができました。参加登録者数：216名、動画再生回数582回(学術集会長挨拶・講演：162回、教育講演I：148回、教育講演II 139回、特別企画展「別れの乳房」：133回)でした。反応としては、赤十字らしい学会であった、内容が異なったもので興味をもてた、Webなので何度も見直すことができた、等でした。動画配信の様子は、学術集会のホームページの一部をみることができます。

<https://www.rcakita.ac.jp/jrcsn21/blog/news/46/>

皆様には、急遽のプログラム変更、手続きの困難さ等のご迷惑をおかけいたしましたお詫びと共に、ご協力に感謝を申し上げます。



## 第22回 日本赤十字看護学会学術集会に向けて

第22回 日本赤十字看護学会学術集会  
会長 鎌倉 やよい



第22回日本赤十字看護学会学術集会は、「あたりまえの日常を護る:未来共創を目指す社会への貢献」をテーマに掲げました。

持続可能な未来の社会を人々が共に創ることを目指して、①災害を予防するために何ができるのか、②看護学の基盤となるケアサイエンスに如何に貢献するのか、の2つの視点から企画を組み立て、開催に向けて鋭意努力しています。

令和3年度には感染拡大が収束し、第22回の学術集会が対面で開催できることを願っています。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

## 日本赤十字看護学会の強みを活かす 選挙制度の改正と新しい選挙の実施について

日本赤十字看護学会  
庶務担当理事 齋藤 英子

将来構想委員会にて行いました会員アンケートに基づき、選挙制度を改正しました。本学会会員の所属機関は、臨床と教育とが半々でバランスが良く、居住地域も日本全国津々浦々です。赤十字のネットワークが反映され多様な会員構成であるのは、本学会の強みです。多くの会員の意見・ニーズが活かされる学会となるよう、評議員と理事を会員の地域ブロックと所属機関の割合に合わせて選出する体制といたしました。

評議員へ選出されましたら年1回定期開催される評議員会へ、理事へ選出されましたら年数回の理事会・委員活動へ是非ご参画いただきたく願います。現在、学会運営の外部業者委託・リモート化も進めており、どこに居住していても、臨床・教育問わず、学会運営へ参画しやすい体制を目指しています。ご当選された際には、ご就任いただけますと幸いです。

リモート化の一環として、学会の活動に関する進捗情報を年数回メールにて配信を開始しました。メールアドレスの登録をまだなされていない方、メーリングが届いていらない方は、メールアドレスの登録・変更をお願いいたします。また、学会ホームページのトップページ上方にある水色バナー「マイページ」から、ご自身の居住地・所属機関・メールアドレス等のご確認・変更をお願いいたします。選挙の際には、会員として所属機関を教育機関名で登録されている方以外は、臨床の区分となっておりますのでご了解ください。

みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

### 会員の みなさまへ

メールアドレスと登録をお願いいたします。<http://plaza.umin.ac.jp/jrcsns/admit/>の  
会員登録住所の変更方法からお願いいたします。

## 研究活動委員会セミナー オンライン開催

講師：今戸 美奈子 先生(高槻赤十字病院 慢性疾患看護 専門看護師)

日時：2021年3月13日(土) 13:30~15:00

テーマ：臨床実践と研究をつなぐ

申込宛先：jrcsns@redcross.ac.jp

## 2021年度研究助成募集

2021年度の研究助成を募集しています。募集締め切り2021年1月15日(金)です。

2021年度より、会員の方に加え、学会入会手続き中の方も応募可能とします。

1件につき、上限30万円(10万程度の申請も可)、総額60万円です。詳しくはホームページをご覧ください。



NEWS LETTER The Japanese Red Cross Society of Nursing Science Vol.18, 2020.

日本赤十字看護学会ニュースレター 第18号 2020年11月発行

- 発行 日本赤十字看護学会 広報委員会  
東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内
- 学会ニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。  
<https://plaza.umin.ac.jp/jrcsns/publication/>
- 学会ニュースレターに関する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。  
nisikata@rchokkaido-cn.ac.jp  
namimo@rctoyota.ac.jp までお願いします。

### 編集後記

今回は、コロナ禍の中でどのような取り組みがあったかを報告しました。医療・福祉・教育の場で、それぞれの困難に直面した取り組みがありますが、それを通して改めて赤十字や看護の価値や意義を感じられていることが、共通しているように思いました。まだ終息は見通せません。会員の皆様には、より一層の感染予防をされてこの冬を乗り切っていただきますよう、お祈り申し上げます。